えひめ日本語ネットワークNEWS

第18号　2023. 3

日本語支援活動に明るい未来があるか？

２５年前、松山市の小中学校に通う外国人児童生徒や中国残留孤児等に日本語指導を行う必要性があった。が、行政から支援を受けられなかった。彼らを見捨てることができない私は、ボランティアで毎週日曜日に２時間、公民館で日本語指導を行うことを決めた。約７年間のボランティアから感じたことは、「行政の関心の低さ」と「日本語指導の難しさ」であった。

日本語ボランティア（支援者）の現在の大きな課題は、「支援者の高齢化と担い手不足」。そして、「支援者の専門性不足」であると考える。

ボランティア活動を実施している人は、比較的裕福な主婦層から始まったといわれている。今の若い人たちはそんな余裕はなく、ボランティアを募集しても集まらない。ボランティアの多くが６０代後半や７０代にさしかかっていて、体力的にもきつい。日本語教育機関の教師数の約６０％をボランティアが占めていることを考えると、長期にわたって安定的に活動に参加できる人材の確保、育成は喫緊の課題である。

「支援者の高齢化と担い手不足」解消のために、日本語指導が一つの価値ある仕事として認められることである。日本語教師の６割がボランティアで、１割が常勤職員、３割が非常勤職員になっているようだ。この実態から、「日本人だから日本語を教えることができる」等、日本語指導がいとも簡単に思われている気がする。日本語指導が外国語指導と何ら変わりない難しさがあることを、ボランティアをしながら訴え続け、ボランティアに「おんぶにだっこ」状態にある行政の姿勢を変えていきたい。日本語教師が一つの立派な仕事であり、給料をいただき国際貢献できるならば、若者も日本語指導のボランティアとしての担い手になってくれるだろう。また、有料ボランティア制度にして、ボランティアの負担を減らすことも必要であろう。さらに、外国人にも日本語指導をしてもらう発想も必要であろう。

日本語教室では「テキスト」を使った学習が中心になることが多く、支援者は文型・

場面等に基づいた言語項目積み上げ型の授業が求められる。その結果、支援者に「日本人でも日本語が教えられるわけではない」という気づきが生じ、研修の必要性が認識される。

「支援者の専門性不足」の解消には、相応の学習とそれを可能とする時間・経済力が必要とされる。それを支援者の個人的な努力やゆとりに期待してはならない。しかし、かれらに安心して専門性を身に付ける機会を設けるならば、前向きに研修に取り組むであろう。

そのためには、様々な研修の機会を増やすことである。例えば、次のような研修会を設けていきたい。①グループのメンバーによって行われる研修会。②外部講師を招いての研修、③いくつかの日本語教室がネットワークし外部講師を招いての研修。④支援者がグループの枠を越えてネットワークし、支援者同士で行う研修。⑤未経験者を対象に新たな支援者を養成するための研修。⑥外国人生徒を招いての授業研究会（①～③は未実施。④⑥は実施済。令和４年度）

これらの研修会に参加するには、時間・経済力が必要になってくる。研修がスムーズに進行するには、地方自治体や関係機関等のバックアップなしではボランティア日本語指導は衰退の一途をたどると考えられる。「ヒト、モノ、カネ」はどうしても必要不可欠なものである。これからの日本語指導がボランティア任せになってはならない。行政の支援や関係機関の連携により、少しずつ日本語支援活動にも明るい未来が開けてくるだろう。そして、世界に誇る日本語指導が生まれるだろう。

大塚安彦

4月開講！　ボランティア日本語教師育成講座　受講生募集！

初　級　Ⅰ　第2・4土曜日13:20～14:50

実践コース　第1・3土曜日15:00～16:30

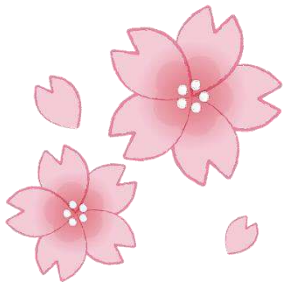
場所　松山市ハーモニープラザ

費用　初級：　年間8,500円（テキスト代、年会費を含む）

実践コース:年間6,000円（年会費を含む）

お問い合わせ　えひめ日本語ネットワーク　ehime-nihongo@nifty.com

学びのコーナー



暮らしと色

「先生、家族は何色ですか」

こんな唐突な質問を受けたのは今から10数年前、聖カタリナ高校の留学生に個人レッスンに通っていたころだった。家族の色そのものよりもこんな質問をするに至った背景に興味があった。当時クラスメイトにお母さんが病床にあり、今でいうヤングケアラー状態の友に手伝いを申し出たところ「赤の他人にお世話になるのは申し訳ない」と断られたと言う。他人は赤、じゃあ家族は何色？となった。

「家族構成、性別、年齢、個々の個性、状態など多くの要素が複雑に絡み合って醸し出される色彩は夫々の家族に夫々の色がある」と説明したところ「私の家族はピンクです」と答えが返ってきた。温かい和やかな家族を彷彿とさせた。懐かしい思い出である。

考えてみれば古くは平兼盛による“忍ぶれど色に出にけりわが恋は・・・”のように私たちの暮らしの中に様々な「色」が共存することに気付く。色をなす、色を失う、色めき立つ、色を付ける、など内面の微妙な心の動きを感覚的に捉えて表現するのに便利に頼ってきた。

「赤の他人」「真っ赤な嘘」「赤っ恥」「赤点」「赤字」…赤は「まったくの」という意味を強調するのに使われ、黒白をつけるの「黒」は語源的には「暮れる」「暗い」に繋がり「黒い噂」「腹黒い」「容疑者はクロ」など悪いイメージが多い。「黒」と決められないものはグレーに留めおく。

「青二才」の「二才」はボラの幼魚の意で若者を暗示するそうだ。「青」はここでは「緑」で赤く色づく前の色は未熟を意味する。つまり未熟な若者を指し、若者自身が謙遜の意味で用いたりもする。「白」はどうだろう。「座が白ける」「白々しい」」「頭が真っ白になる」など活気に乏しい興ざめた雰囲気を感じる。

アイドルのライブに集まる若い女性たちの「○○さぁ～ん、キャーっ」と叫ぶ絹を裂くような甲高い熱狂的な声は「黄色」でなければならない。「キャーっ」という紫色の声では落ち着かない。

このように私たちの暮らしの中に様々な「色」が存在し、その多彩な色あいのお陰で日本語が

より豊かに生き生きと表現されている。改めて日本語の深さに思い至る。オノマトペもその一翼を担っていると思う。雑用に忙殺される合間にボーっと一息、うちの家族は、私は何色かなと思いを巡らすのも楽しいかもしれない。チコちゃんに叱られるかな。

宇野美登里

参考文献

中村明『ことばの食感』新聞寄稿文

中村明『語感の辞典』岩波書店

ボランティア日本語教師育成講座

「実践コース」って？

外国人の学習者に日本語を教えるための実践的な講座として、5年程前に開講されたコースです。『みんなの日本語　初級I,II』を2年間勉強した後、すぐ外国の人に教えることは難しいということで、月2回模擬授業を中心に行っています。

コムズで開講されているMIC（まつやま国際交流センター）日本語教室の夜間の一クラスを私達えひめ日本語ネットワークが担当し、そこで教えることを目標にしています。自分が教えたい課を決めて教材作りや進め方について、現在4人が宇野先生に指導していただきながら勉強しています。

学習者の前に立つと緊張してなかなか思うように進められないこともあり、また、学習者の質問に戸惑うこともあります。学習者は出身国も日本語のレベルも皆違うので、様々な質問にその場で臨機応変に対応しなければならないこともありますが、熱心に授業に取り組む学習者の声に応えられるよう努力していきたいと思っています。

これからも様々なことを経験しながら、研鑽を積んでいきたいと思います。そして、この実践コースがずっと続くことを願っています。

川原真美子

MIC日本語教室

はじめて日本語の授業を担当して

昨年の 12月20日(火)18:30～20：00日本語教室での授業を行いました。クリスマス前の寒い日でした。学習者が全員出席なら7名のところ その日は3名でした。残念と思う反面、正直気が楽になった側面もありました。焦らずにできたように思います。この日の授業は『みんなの日本語Ⅰ』の第9課でした。この課の学習目標は以下の通りです。

1、好き嫌い、上手下手、わかる、ある(所有)の表現が使える。

2、理由が簡単に説明できる。

「好き、嫌い」は特に問題なくできました。絵を見せて好きなもの嫌いなものを言っていくので、学習者もスムーズにできました。「上手、下手」もわかってもらえました。しかし、学習者に「あなたはサッカーが上手ですか？」と質問してしまって、「はい、私はサッカーが上手です。」と答えさせてしまいました。しまった！自分が上手とは言わないです。自分が言う場合は「得意です」を使かった方がいいです。「わかる」は問題なくスムーズにできました。物の所有ではない「ある」のところで「約束」とか「用事」という言葉が出て来て、手持ちの例文が少なかったので、十分納得させる説明ができませんでした。英語がわかる学習者だったので、英語で“promise”と言ったらわかってもらえたのに！日本語で日本語を教えるって難しい！「理由が簡単に説明できる」のところでも「残念」という言葉が出て来て四苦八苦。 模擬授業を3回もやったのにこの程度しかできなかったと自信を失くした一日でした。今度教える機会があったら、もう少し上手に教えられるように頑張りたいと思っています。

黒田次宏

用事？　　**約束？**

辞書によると「**用事**」は「しなければならないこと」です。たとえば「あした銀行へ行きます。テニスをします。友だちと食事します。」などプライベートなことについて「**あした用事があります**。」と言うことができますが、学生が「学校へ行く」ことや会社員が「会社へ行く」ことを「用事があります。」と言うことはできません。(AS)

【近況報告】

日本語ボランティア養成講座を受講して

今回は、福山市の２０２２年度外国人市民支援事業の日本語ボランティア養成講座（全２回）に参加した報告をしたいと思います。ボランティア日本語教師養成というよりも日本語ボランティアの紹介でした。福山市は、５０人に１人が外国出身/外国につながる市民で、若者や働き盛りの年代が多いのが特徴です。２０２１年９月３０日に公布・施行された「福山市人権尊重のまちづくり条例」は、全ての人の人権が尊重される社会を実現することを目的としています。外国人市民は「支援を受ける人」、日本人市民は「支援する人」ではなく「共にまちをつくる仲間」です。いっしょに学んだり、地域と交流したりするなどのサポートができる人が必要です。また、ボランティア活動のポイントとして①身の回りの小さなことから始める②対等な関係を目指す③約束や秘密を守る④何でもやってあげる？？⑤無理をしない⑥悩みを抱え込まない⑦宗教や政治活動、商売と切り離す⑧安全な活動があげられます。

では、日本語ボランティアを必要としている人は、どんな人たちかというと、国や立場（学生、国際業務、技能実習生、短期滞在、家族等）、日本語のレベルや日本語ボランティアを必要とする理由（生活のため、日本語試験のため、文化を知りたいなど）が違うなど様々な背景を持つ外国人です。日本語を教えるとなるとテキストや教材が気になります。日本語学校で勉強したことのある人は自分のレベルが分かっているのでテキストを選ぶことが容易なのだそうです。生活者向けのテキスト（『にほんごこれだけ！』『いっぽ　にほんご　さんぽ』など）、電子書籍（『いろどり　生活の日本語』）や動画（文化庁の『つながるひろがるにほんごでのくらし』）の紹介がありました。

３人のグループに分かれて日本語クイズに挑戦しました。日本人にとって当たり前に使っている日本語と外国人が学ぶ日本語は見方が違うことを体験しました。グループ内での雑談がよい交流の場となり多くの情報交換ができました。

最後に日本語学習者をゲストに迎えて演習がありました。日本語指導というよりも地域で必要な日本語ボランティアの演習でした。場面設定は、顔見知りの近所の外国人アリスさんが出かけようとしている。朝のニュースで①積雪のため、電車のダイヤが乱れている②今後大雪が

予想され不要不急の外出は避けるように③異次元の少子化対策を行うがあり、これをアリスさんにどう伝えますか。みなさん、考えてみてください。ふりかえりのポイントは４つ。①自分が話しているのは何割ですか？②相手がどんな言葉を使っているか理解しようとしましたか？③表情は？④伝えるときにどんな工夫をしましたか？　どうでしょうか。

　伝えようとばかり考えていると顔から笑顔が消え、相手の表情や理解力を考慮せず一方的に話してしまいがちです。しかし、聞いてもらうためには笑顔は大事です。やさしい日本語、通常の日本語、母語などを使って伝えます。そうすると相手は行動にうつすことできます。すると命と人権を守ることができます。地域におけるボランティアの必要性を実感した演習でした。講師は「ボランティアはできる人ができるときにできる範囲ですることが大切で、無理なく続けていくことが重要です。」と話されました。私もボチボチ頑張っていこうと思います。

日本語ボランティア養成講座で３人のグループに分かれて挑戦した日本語クイズです。

【日本語クイズ】

1. グループで考えてみましょう.①

名詞？　な形容詞？　い形容詞？

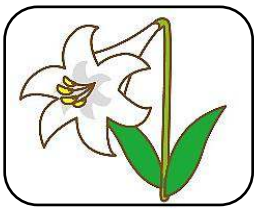
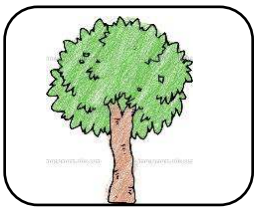
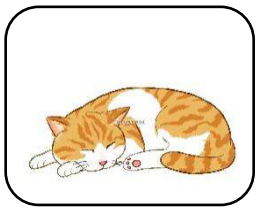
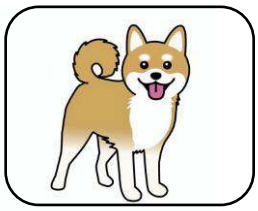
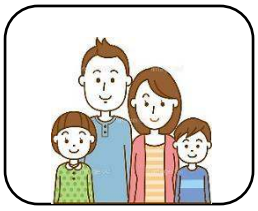
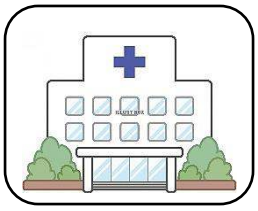
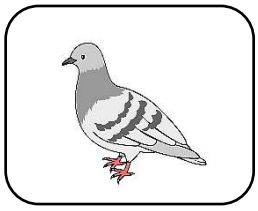
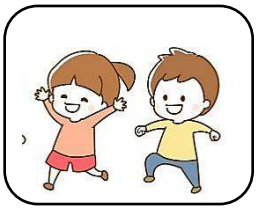
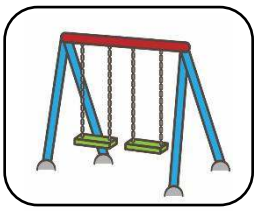
忙しい	ひま	きらい	好き	汚い	きれい
雨	上手	すてき	ほしい	簡単	しずか
同じ	にちようび	いい	天気	病気	9歳

2. グループで考えてみましょう。②

1グループ？　2グループ？　3グループ？

来ます		散歩します		まちます	
寝ます		書きます		起きます	
見ます		食べます		借ります	
します		急ぎます		呼びます	
着ます		貸します		置きます	

3. みなさん、絵をみてください。ある？いる？どちらでしょう。

2022年度福山市ボランティア日本語教師養成講座　参照

藤井宣恵

問い合わせ先：　えひめ日本語ネットワーク事務局

Email　：　ehime-nihongo@nifty.com